

年内・年明けの解散・総選挙 可能性きわめて濃厚

日本共産党躍進の波を急いでおこそう
神戸・党演説会
志位委員長が訴え

日本共産党の志位和夫委員長は9日、神戸市でおこなわれた党演説会の訴えのなかで、「日本共産党は、野田政権に対して、すみやかな解散・総選挙を求めてきました。政府・与党が、国民の声に追い詰められるなかで、年内・年明けの解散・総選挙の可能性がきわめて濃厚になってきました」と指摘。「いよいよ日本の進路をわける歴史的なたしかが目前に迫りました。日本共産党は、議席倍増をめざし、特別の臨戦態勢をつくり、全力をあげてたたかいます。どうか躍進の波を全国津々浦々でいそいそおこしてください」とよびかけました。

志位氏は、(1)野田佳彦首相が解散の条件としていた「公債特例法案」が成立する見通しとされていること(2)首相が「民自公」の密室談合で交わした「近いうちに解散する」という言明から3カ月がたち、「約束違反」という批判が広がっているが、この問題の矛盾の根本には公約を破って消費税増税法案を強行したという問題があること(3)内政、外交のあらゆる面で政権が行き詰まり、内閣支持率が「危険水域」といわれるところまで下落していることを指摘。野田政権が追い詰められるなかで、「年内・年明けの解散・総選挙の可能性がきわめて濃厚となつて

2012.11.13 NO.579

日本共産党

磯城郡議員団だより

和也 芝 和也 Eメール info@k-shiba.jp
川西町結崎 862-7 0745-43-2415
吉田容工 Eメール katunori_yosida@ybb.ne.jp
田原本町大木 113-5 090-5257-4446
森良子 Eメール qfndg008@ybb.ne.jp
田原本町鍵 281-1 0744-33-8570
(事務局)池田年夫 Eメール uvkk87386@zeus.eonet.ne.jp
三宅町屏風 440-5 0745-43-2661

きました。今日の常任幹部会でもその認識を確認し、特別の臨戦態勢をとって、議席倍増のために大奮闘することを決めました」と報告しました。

そのうえで、民主も自民も、「第二極」を名乗る諸勢力も、日本が直面している問題に、何の打開の方策も示せないもとで、日本共産党が、「経済提言」「即時原発ゼロ提言」「外交ビジョン」「尖閣提言」など、あらゆる分野で国民の立場に立った打開策を示していること、その根本には「アメリカいいなり」「財界中心」という古い政治の「二つの害悪」を断ち切る改革を進めるという立場があることを縦横に語り、つぎのようによびかけました。

「日本共産党は、どんな問題でも、国民的打開のための具体的提案を明らかにし、その実現のために行動する党です。この党を躍進させてこそ、日本の明るい未来が開けます。どうか目前に迫った総選挙で、民主連合政府の樹立に向けて第一歩を踏み出す、躍進を勝ち取らせてください」

2012年11月10日(土)

復興予算の流用で問題になっている「全国防災対策費」をめぐる、政府が予算を組む根拠として過去の事例にあげた、阪神・淡路大震災での同様の対策費が当時は復興経費に含まれていなかったことが分かりました。約2兆円(来年度概算要求を含む)にのぼる全国防災対策費を国民への増税などでまかなう復興予算に付け替えた正当性が問われます。

全国防災の必要性を、政府は「阪神・淡路大震災の直後に講じられたものと、少なくとも同程度の予算が必要」(2011年11月22日、吉田泉財務政務官の国会答弁)と説明します。

この緊急防災対策費は、国費と地方負担をあわせて事業規模1兆3千億円。「大震災にかんがみ、地震災害等の防止のため緊急に対応すべき事業に必要な経費」とされ、被災地外の道路や港湾、公共施設の耐震化などに使われました。

東日本地震・12号台風への救援募金にご協力を

日本共産党は被災者の救済・支援のために、救援募金を引き続きお願いしております。ご協力をお願いします。

【郵便振替口座】
0017017198422
名義は、日本共産党中央委員会です。送金いただく場合は、振替用紙の通信欄に、かならず、「地震救援募金」である事を明記して下さい。ご協力よろしくお願ひします。

磯城郡日本共産党議員団

そのため国が阪神・淡路大震災の復興費とする1兆6千億円(国、自治体負担分)には含まれません。東日本大震災の復興予算を編成した財務省主計局も、「これまで確認したことはないが、阪神・淡路では経費に入っていないはずだ」(担当者)と認めます。

財務省は全国防災を復興予算に付け替えた理由として、昨年6月に成立した復興基本法(民主、自民、公明3党などが賛成)をあげ、法にもとづいて政府で取り組んできた説明。「復興予算の枠から全国防災を外すとはならない。批判は受け止め、被災地を中心に事業内容の絞り込みをしていく」(主計局担当者)とします。

不適切さ示す

復興予算の流用を指摘してきた塩崎賢明立命館大学教授の話。復興予算を被災地外の事業に使う不適切さがあらためて示された。震災を口実にすれば公共事業に多額の追加予算を組めるといふ阪神・淡路大震災の経験から、今回も同じように考えたのだから。しかし、阪神・淡路大震災では復興とは別物として扱われていたし、今回は住民税や所得税などの増税で財源を得て、復興特別会計を組んでいる点も異なる。復興特別会計という明確な目的を持った財布から、全国に流用することは国民の理解を得られない。



復興予算の全国防災対策費 北海道から沖縄まで全国の事業を対象とし、自衛隊駐屯地の風呂の改修や霞が関の官庁耐震化など、復興・復旧と関係のない使われ方が問題になっています。政府は2011年度3次補正予算と12年度予算に計1兆590億円を計上。さらに、5年間で1兆円程度としていた枠を超えて、来年度概算要求では新たに9412億円を盛り込んでいます。

審判

総選挙に向けた動きがここにきてぐつとクロージアップされて来ましたが、年内か年明けかの何れかでの実施になりそうですが、選挙における審判とは何なのかと、少ない皆さんがこの所々の選挙を通じて、感じているのと違いますが、有権者はのど違ひますか。

とにかく、選挙の時に言うてた事と、その後の行動とにあまりにも違いが有り過ぎますもんね。「いったいどないなつたんねん。」これが共通の思いでは有りませんか。こうした思い。全くその通りでして。憤りは皆に共通しています。しかし、そこであきらめては元も子も有りません。やっぱりこの選挙と言う制度は捨てた物では有りません。

選挙を通じて国民が信を問えるこの仕組みそのものは良く出来ているわけですから。問題は、選挙の時に言うた事を実行するか否は、これまででいいに、言うた事をせえへんだら次が無かつたら利益目が有るわけでした、それが出来るのが、有権者である皆さん一人一人が持つてはる確かな権利と言う大きな力なんですから。

これが曖昧やとこれまでみたいな事にしか成りません。さあ皆さん。同じ轍を踏まない。この鉄則に立って、掲げた約束と行いをしっかり見て審判下さい。

川西町議会

議員

芝 和也



紅葉の季節、蔵王堂へ

いよいよ紅葉の季節になりました。先日、何年かぶりに若草山に登りました。と言っても徒歩ではなく、友人と車でハイウェイを走り、頂上へ。山々の紅葉と奈良盆地が一望出来て、凄く爽快でした。

紅葉と言えば、今月二十三日、田原本後援会の秋のレクレーションで「吉野山の蔵王堂」に行きます。先ほど下見には行きましたが、インターネットで調べてみると次のように出ていました。

「蔵王堂 山上ヶ岳の大峯山本堂に（山上の蔵王堂）に対し、山下（けんげ）の蔵王堂と呼ばれる。屋根は入母屋造檜皮葺き。2階建てのように

見えるが構造的には「一重葺階（もこし）付き」である。豊臣家の寄進で再興されたもので、扉金の銘から天正十九年（一五九二年）に建立とわかる。高さ三十四メートル、奥行、幅とも三十メートル。木造の古建築としては東大寺大仏殿につぐ規模をもつといわれる豪壮な建築である。」

四百二十年も前から多くの人々の信仰を集めてきた風格ある蔵王堂には、圧倒されます。と、同時に吉野の山々の紅葉が私たちの心まで高揚させてくれることでしょう。皆さん、一緒に行きましょ

う！
田原本町
議会議員



創立五〇周年記念式典

先日、東小学校の創立五〇周年記念式典に出席させていただきました。

明治一八年松垣小学校と大木小学校が併合され為川小学校と金沢分校が設置され、昭和三七年四月に現在地に建設され東小学校に改称されたそうです。

記念式典の「東小学校のあゆみ」では、六年生がおじいちゃん、おばあちゃん、地域の方にその時々のお話を聞き当時の様子を教えてくれました。記念式典を通じて、子ども達が地域の歴史を掘り起こし、学習した様子が伝わってきました。

引き続き催された記念行事では、各学年ごとに趣向を凝らした発表が行われました。五年生の発表は吉本新喜劇張りの演技もあり大爆笑をとっていました。

そうそう、記念式典・記念行事の司会は、タレントで卒業生の酒井愛ちゃんを買って出てくださいました。最後に、田中の吹奏楽部がすてきな演奏を披露してくれました。みんな、真剣な顔で、楽しんで演奏していました。

フルート一本であったも体育館中に響き渡ったことには驚きました。

田原本議会議員
吉田容工



災害図上訓練

「東屏風団地地域に約600ミリの大雨が降つたらどうするのか」を想定して図上訓練が11日、東屏風自主防災会の訓練が体育館で行われ、50数名が参加しました。

この訓練には、NPO法人「日本防災士会奈良支部」の協力をへて、東屏風団地の水害時の状況、水害対策をどうすればいいのかなどを6班に分かれて議論しました。

講師は「役場からの避難準備情報は出せるのか」という問いに、「役場では出したいが、なかなか出せないのではないかと」という返事であった。

「住民自身が自分の命は自分で守るしか方法は無い。避難場所も避難時個人で判断するしか方法はない」役場の情報も良いが、災害時には、自分で判断して行動する」こ

とが自分の命を守ることになると強調していただきました。

最後に6班の議論のまとめが報告され、ある班では、東屏風団地の水害に対する強みとして、住民のつながりが強い。弱みとしては、土地が低い。避難路がない。避難場所がない。などが上げられました。

対策として、一次的には2階に避難する。平屋の方にも声を掛ける。避難用のポートを用意する。高台（屏風池の堤、京奈和道路など）を探して避難するといった意見が出されました。講師も避難情報を共有する。一刻も早く避難することを強調していただきました。

三宅町
池田年夫

